平成28年度 学校評価書

2017/5/31現在

学校教育目標：かかわりの力を育てる

めざす子ども像

自分が置かれている場面に応じた行動をとることができる人

【評価】 保護者による評価 A:3点 B:2点 C:1点 D:0点として点数の合計による評価(質問項目ごと保護者最大27点)※保護者9名
 教員による評価 A:3点 B:2点 C:1点 D:0点とする(1)(2)それぞれ教員最大21点)※教員7名
 達成度: A 達成できた(8割以上) B ほぼ達成できた(6~7割) C あまり達成できなかった(4~5割) D 達成できなかった(3割以下)

No	項目	今年度の重点	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題(○)及び改善策(→)
1	学校	早く登校したくなる (1) 授業研究に計画的に取り組み、子どもが楽しく学び確かな力を身に付ける授業づくりの専門性を高める。 (2) 本校及び山五小等と連携しながら具体的内容を検討し、人のかかわりを楽しみながら活動できる交流及び共同学習を計画的に実施する。	・幅広く専門性を高める観点から、研究授業は様々な学習形態に取り組む。主担当を中心としながらも全員で授業づくりに取り組む。学部研等でのOJTを推進する。 ・年度当初に児童の情報交換会をしたり、事前に担当間で話し合う機会を設けたりして相互理解を深め充実した交流にしていく。	・昨年度の改善点を受けて、多様な学習形態による計4回の授業研究会を実施した。(合同の遊び、学級の遊び、音楽・音楽遊び、学級の生活単元学習) ・授業づくりを全員で行うことにより、改善点やアイデアを取り入れ、よりよい授業になっている。 ・知恵を出し合うためには、計画に沿って早めに授業案を出していくことが肝要。 ・年度当初、山五小の「児童を語る会」に学部主任が参加し、山形校児童の理解も含めて有意義な意見交換ができた。 ・遊びの授業「もぐらランドで遊ぼう」の活動で山五小低学年を招いて交流学習を実施し、お互いに楽しい時間を過ごすことができた。 ・山五小つくし学級の児童とも学習園で栽培した野菜をお裾分けするなどして休み時間も含めた日常的な交流を進めることができた。	A	【専門性の向上】<研修部> ○授業研究会における意見交換を通じて、改めて授業づくりの上で教師のかかわりが重要であることが確認された。 →教師のかかわりに焦点化しながら、学部研等でのOJTを推進する。 【交流及び共同学習の成果】<学習部> ○これまでの実績を生かして山五小との交流をさらに発展させたい。 →相互乗り入れによる児童の情報交換会をしたり学校行事における事前打ち合わせを密にしたりすることで、充実した交流にしていく。
2	学校	安心してまかせられる (1) 教職員全員によるヒヤリハット事例の蓄積と共有化を継続し、日常的な事故防止に努める。 (2) 山五小と連携しながら山形校児童の実態に合った避難訓練等を実施し、子ども自身が危険から身を守ることを意識して行動できる安全教育を推進する。	・できるだけ多くヒヤリハットを出し合うことの重要性を再確認するとともに、終礼等で必ず話題にしていく。 ・事故等のない安全な環境を整える。 ・児童の実態や目標を踏まえた山形校の計画を提案し、十分共通理解するとともに、必要に応じて山五小と調整を図ることで、より充実した避難訓練につなげる。	・事例について速やかに終礼等で共通理解したことで大きな事故やケガなく過ごすことができた。教室間移動の際など児童への対応について周りの職員への声かけが足りずに行き違いになることがあった。 ・ヒヤリハット発生事例の記録にあたっては、気づいた教員が記入し、それが月ごとの集計確認に直結されるようになりシステムが改善された。 ・二校連絡会や担当間の連絡調整のもと合同避難訓練等を実施することができた。山五小の提案に合わせて参加することが多く、山形校の児童の実態や目標を踏まえた訓練にしていく必要がある。	B	【安全指導の充実】<保健体育部> ○これまでの反省をもとに山形校児童の実態に合った避難訓練にしていきたい。 →児童の実態や目標を踏まえた山形校の計画を提案し、合同による意味を山五小と共通理解しながらより充実した避難訓練につなげる。 【ヒヤリハットの取り組み】<保健体育部> ○些細と思われる事案でも、全体で確認する意識をこれまで以上に高めていく必要がある。 →事例に気づいたときには、速やかに声に出し合える環境を整えるとともに、記録から報告のシステムを簡素化して実際に機能させていく。
3	学校	相談や支援を受けられる (1) 丁寧な説明や十分な情報交換を通して保護者や関係機関との連携を深め、生活・学習・進路等における適切な支援につなげる。 (2) 各種作品展への出展や学校だよりの回覧、各種相談への対応等を積極的に行い、地域の特別支援学校としての情報発信やセンター的機能の発揮に努める。	・連絡帳などのやりとりを通して児童の状況を把握し、適切な支援を行う。 ・本校中学部と連携し、進路に関する情報を共有することで、保護者との連携や指導に生かす。 ・学校だよりの発行を通じて、学校生活や特別支援教育に関する情報を分かりやすく発信する。 ・公民館文化祭や市作品展等に積極的に出展し、山形校の状況を発信していく。	・登下校時を中心とした日常的なやりとりを通して学校と家庭が連携して学習面・生活面の支援にあたることができた。 ・学校保健委員会や進路学習会などの開催を通じて、保護者に健康な生活や卒業後の進路などについて情報を提供することができた。 ・今年度は、学校だよりをA4版両面刷りの紙面構成として発行した。学校生活の様子に加え、生活単元学習や遊びの授業などについて特別支援学校ならではの内容を分かりやすい表現に留意して、地域に知らせることができた。 ・教育相談への対応や授業研究会での助言など、センター的機能を果たすことができた。	A	【保護者との連携推進】<教務部・小主任> ○児童一人一人の目標・支援・変容等について、保護者との共通理解をさらに深めたい。 →日常的なやりとりや昇降口に掲示する授業の様子を伝える写真などを活用し、保護者と十分に共通理解できるようにする。 【学部運営のさらなる効率化】 <教務部・小主任> ○学校規模を生かして、全児童を全職員で見守り指導・支援していく体制をこれまで以上に推進していきたい。 →小さなことでも教員間で話題にしておくことが大切。職員室が常に授業のこと、児童のことで意見交換できる場にしておく。また、学年会を受けて学部会で共通理解するという運営サイクルを進めていく。
4	学校	働きやすい (1) 学部会を核として日々の授業や分掌部の取り組み等を検討・確認する体制を継続し、全教員で児童を支援する姿勢のもと、円滑かつ効果的に教育活動を行う。 (2) 山五小との連携を密にし、お互いの共通理解のもと、共有施設等を有効に活用して分校経営に当たる。	・周囲の意見等を参考にしながら、学級や「学年会」で十分検討した案を学部会で共通理解できるようにする。 ・月2回程度二校連絡会を実施し、様々な情報の共有や指導・支援の共通理解を図ることで、山形校の教育活動を推進する。	・学部会で話し合う内容や運営が先を見通した形で提案されたことで、スムーズに進められるようになってきた。学部会の表紙に次回の議題が記載されているので計画立案の点で効果的であった。 ・授業案の練り上げが十分でないこともあり、授業前の再提案になることもあった。 ・定期的な連絡会による連絡・調整により物品借用など適時行うことができ、教育活動を推進することができた。 ・9月からは、週はじめの3日間(月、火、水)の1校時帯の体育館使用が可能となり、児童の運動量確保につながった。	B	○学校規模を生かして、全児童を全職員で見守り指導・支援していく体制をこれまで以上に推進していきたい。 →小さなことでも教員間で話題にしておくことが大切。職員室が常に授業のこと、児童のことで意見交換できる場にしておく。また、学年会を受けて学部会で共通理解するという運営サイクルを進めていく。

|

|

|